

興奮のブラックフェイス。Fペーアンはあくまで重厚。

38cmベース専用ドライヴァー
をバスレフエンクロージャにマウント。
5バンドグラフィックEQによって
サウンドレンジもワイドな50Wrmsタイプ。

F50-I15B

¥85,000

ノーマルな3バンドトーンコントロールに、定量的な微調整をも可能にする5バンドグラフィックイコライザーをプラスした曲線的なコントロールファンクション。深く揺れ動くようなヘヴィサウンド。明るくメリハリ効いたポップサウンド。そしてタイトでアタッキーなチョッパーサウンド。プロフェッショナルベジストのさまざまな要求に、はっきりと応答するペーアン。



パワー：50W (100W peak) @ 8Ω
スピーカー：38cm (JA3855, 8Ω) ×1
インプット：1ch 2in (HIGH, LOW)
入力感度・インピーダンス：HIGH(-44dB-1MΩ), LOW(-32dB-60KΩ) @ 0dB=0.775V, VOLUME & TONE max. EQUALIZER flat, at 1KHz
アウトプット：SPEAKER OUT(phone jack) ×2
コントロール：VOLUME, TREBLE, MIDDLE, BASS, GRAPHIC EQUALIZER(60, 150, 320, 640, 1250Hz)
定格電源電圧・周波数：100V・50/60Hz
定格消費電力：90W
サイズ：68.7W×79.0H×32.0Dcm
重量：35kg
付属品：VINYL COVER, CASTOR

低域の能率と指向性を格段に向上する
バックロードホーンエンクロージャを採用。
5バンドグラフィックEQを装備した
100Wrmsタイプ。

F100-I15B

¥130,000

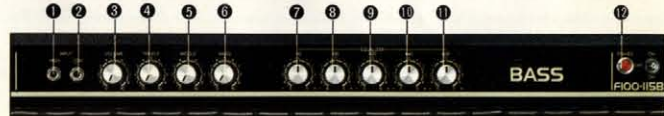
3バンドの基本的トーンコントロールに加え、音色のバリエーションを格段に広げる5バンドグラフィックイコライザーを装備。床に沈み込むような重低音から、タイトでポップなサウンドまで、プレイヤーのセンスに応え自由自在に再現。バランス型XLRタイプコネクタによるシグナルアウトも装備。スタジオでもライブでも、ハイオケリティなライン採りに威力を発揮。



パワー：100W (200W peak) @ 8Ω
スピーカー：38cm (JA3807, 8Ω) ×1
インプット：1ch 2in (HIGH, LOW)
入力感度・インピーダンス：HIGH(-38dB-1MΩ), LOW(-26dB-60KΩ) @ 0dB=0.775V, VOLUME & TONE max. EQUALIZER flat, at 1KHz
アウトプット：SPEAKER OUT(phone jack) ×2, SIG. OUT(XLR3: 32balanced)
コントロール：VOLUME, TREBLE, MIDDLE, BASS, GRAPHIC EQUALIZER(60, 150, 320, 640, 1250Hz)
定格電源電圧・周波数：100V・50/60Hz
定格消費電力：90W
サイズ：68.7W×95.0H×37.0Dcm
重量：52kg
付属品：VINYL COVER, CASTOR

●フロントパネル

- ①INPUT-HIGH：高感度(-38dB)、高インピーダンス(1MΩ)のインプット。通常はこのインプットを使う。入力感度とは定格出力を得るために必要な信号レベル、ボリュームとトーンを最大にイコライザーをフラットにして、1KHzの連続信号を入力した時のデータ。そのままベースの信号には適用できない。あくまでも楽器とのレベルマッチングの目安だ。
- ②INPUT-LOW：低感度(-26dB)、低インピーダンス(60KΩ)のインプット。特に出力の大きな楽器を接続する場合や、全体的にマイルドな音色にしたい場合に使う。
- ③VOLUME：音量を調整するノブ。フルボリュームで最大出力が得られる。
- ④TREBLE：高域用トーンコントロール。0側ではソフトで丸いサウンド、レベルを上げるに従ってクリアでアタッキーな響き加わる。
- ⑤MIDDLE：中域用トーンコントロール。0側では芯の柔らかなサウンド、レベルを上げるに従って豊かでメリハリあるサウンドになる。
- ⑥BASS：低域用トーンコントロール。0側ではハードで軽いサウンド、レベルを上げるに従ってヘヴィで深い響き加わる。音の骨ぐみも細くかたくするかを決める重要なポイント。
- ⑦EQUALIZER-60：グラフィックイコライザーの最低カット点60Hzのコントロールノブ。一般に音の成分としては少ない高域だが、力強さ、スケールの大きさに大きく影響する。



フルレベルでは床ごと振動するような重低音を感じさせてくれる。

- ⑧EQUALIZER-150：150Hzのノブ。音の厚さ、腰の張りを変化させ音楽的なバランスをとる音域だ。ブーストすることによりフーミーな感覚が生まれ、アンプと鳴るような感じになる。
- ⑨EQUALIZER-320：320Hzのノブ。音のメリハリや響きさを表現するパート。一般にはブースト使用が多いが、カットすることによりユニークなサウンドを作るのもおもしろい。
- ⑩EQUALIZER-640：640Hzのノブ。音の立ち上がり感や、弦の振動感を左右するポイント。ブーストすればチョッパーをきかたせ「ピンピン」した音、カットすれば「ンペンペ」といったこもった音になる。
- ⑪EQUALIZER-1250：1250Hzのノブ。ラウンドワウンド弦の細かい響きや、弦がフィンガーボードにあたる音などを再生するのに効果的なノブだ。チョッパーサウンドを生かすポイント。
- ⑫POWER：位相切り換え兼用の電源スイッチ。通常はノイズの少ない側にしておこう。

●リアパネル



- ⑬SPEAKER OUT-1 & 2：1は内蔵スピーカーJA3807の接続用に使っている。2は増設用端子。2のみ使う場合は4Ω以上のスピーカーシステムに接続しよう。
- ⑭SIG. OUT：ローインピーダンス600Ωライン用アウトプット。コネクターはキャン(XLR3-32)。ノイズが少なく音質の良いバランスタイプだから、PAやレコーディング時のミキサーへのライン送込に便利だ。規定出力レベルは-20dB(0dB=0.775V)、最大出力レベルは0dB。

3バンドトーンに5バンドグラフィックEQも装備。

COLUMN 5：さて、Fペーアンのコントロールファンクションも使えるようになろう。

Fペーアンプのメリットは充分理解してもらえただろうが、抽象的な言葉で「ほとんど無限大のサウンドバリエーションが得られる」などと説明してあってもなかなかピンと来

ないかも知れない。そこで、具体的なサウンド例をあげて、Fシリーズベースアンプの使用法を教えてしまおう。まずトーンコントロールで大きめに音を作っておき、次にグラフィ

ックイコライザーによって足りない部分を補正するのが基本。使用ベースはヤマハBB1200(PU型)。

■チョッパー派ポップサウンドに挑戦：S.C.1

今やベジストの必修科目になってしまったチョッパー奏法。単にチョッパー向きの音色を作るだけなら簡単だ。低域を絞り高域を効かせればよい。しかし、例えばバリス・ジョンソンのようにチョッパーの効果も最大限に引き出しながらも、1曲のなかで普通の演奏と使い分けるとしたらそうはいかない。高域を上げ過ぎると指弾きの時に耳ざわりが、逆に絞ってしまうとこもってしまってチョッパーが生かされなくなるからだ。
弦はラウンドワウンドがベスト。インプットはHIGH。さて、まずトーンコントロール。とまかくリズムをきかたせ

F100-115B●S.C.1



ためにもBASSは極力絞って0.5ぐらいにする。さらにハリのある音にするためにMIDDLEは7まで上げる。TREBLEはあえて上げず5でいい。次にイコライザーで仕上げをする。まだ音が全体に硬すぎるので甘さを加えよう。ただL60Hzの

超低音は必要ないから-5、150Hzは少し上げて+1.5、320Hzも+2.5。高域は絞りがみ。640Hzを0、1250Hzを-2にすればできあがり。2PU型ベースの場合も、フロントPUを使えばほとんど同じセッティングでいい。

■プログレ派ソリッドサウンドに挑戦：S.C.2

プログレッシュロック系のベジストは、メロディアスなラインやギターにも似たリフワークを要求される。当然のように音数が多くなるので、音のディテールをはっきりさせる必要がある。そこでソリッドかつタイトなサウンドが好まれるわけだ。例えば、イエスのクリス・スティアワアがいいサンプルだ。この手のサウンドは硬い音の代表のように思われていて、2PU型ベースのリアPUを使っている人が多い。しかしここではあえて1PU型ベースで挑戦しよう。弦はラウンドワウンドでもフラットワウンドでもいいが、ラウンドワウンド弦の場合特に、シャリシャリした響きが出過ぎないように注意すること。また、指で強くよりもピックを使った方がカッチと決まるようだ。

F100-115B●S.C.2



準位置の5でいい。BASSは下げてはいけない。むしろ少し強調する感じで6にする。
さてグラフィックイコライザーの番だ。やはり高域中心のセッティングになることは同じ。しかし、その裏で低域への細かい配慮も必要だ。低い方から60Hzを-2、150Hzを-1.5にする。あらかじめトーンコントロールで上げめにしておいたBASSを、今度はイコライザーで削るわけだが、絞り切らないところがミソ。次に高い方から1250Hzを+2.5、640Hzを+1.5にセットする。フラットワウンド弦の場合は1250Hzを

もう1目盛り上げた方がいいかも知れない。残るは320Hz。このままだと少しピンポイントとした感じが残り過ぎるし、つややか過ぎるので、一気に-4.5まで絞り荒れた感じを出そう。以上が1PU型ベースの場合で、S.C.2に示した通りだ。2PU型ベースの場合も基本的には同じ。S.C.2のセッティングに少し手を加えればよい。リアPUを使おう。変える部分だけを列記すると、MIDDLEを上げて7、BASSも上げて7.5、150Hzは下げて0、320Hzは少し上げて-3、640Hzは上げて+2、1250Hzは下げて+2というぐあいだ。

ROTARY AMPLIFIER

RA-70

空間の広がりを感じさせるスペシャルエフェクト。
キーボードはもちろんギターにも使ってみよう。

¥120,000

スピーカーの回転によってトレモロを作るロータリーアンプ。トレモロとはいっても、実はビブラートとフェイズシフトをともなった特殊エフェクト。広がりのあるコーラス効果とウェットなまでの質感。オルガンやシンセサイザーなどのキーボードだけでなく、エレキギターにも効果的。パワーは50Wrms。38cmメインスピーカーとロータリー専用スピーカーの2ウェイ。



パワー：50Wrms (100W peak) @ 8Ω
スピーカー：MAIN 38cm(JA3852) ×1、ROTARY(JA1701B) ×1
インプット：1ch 2in (HIGH, LOW)
入力感度・インピーダンス：HIGH(-26dB/400KΩ), LOW(-20dB/100KΩ) @ 0dB=0.775V
フットスイッチジャック：SPEED (TREMLO/CHORUS), VOICE (ON/OFF)
コントロール：VOLUME, BASS, TREBLE, TREMOLO SPEED
定格電源電圧・周波数：100V・50/60Hz
定格消費電力：75W
サイズ：60.0W×87.0H×37.5Dcm
重量：40kg
付属品：VINYL COVER, FOOT SWITCH, CASTOR

SYMPHONIC ENSEMBLE SK10

¥110,000



じっくり吟味された音色のみを装備したシンフォニックキーボード。オルガン系8'、4'、2'、ストリング系8'、4'、プラス系8'、4'の計7種類のトーンを自由自在にミキシング可能。加えてビブラート、アンサンブルエフェクト、アタック、サステインなどエフェクトコントロールも充実。49鍵ながら5オクターヴをカバー。もちろんポリフォニックタイプ。